

事前評価調書

I 事業概要																											
事業名	農業農村整備事業（防災ダム事業）																										
地区名	くちなしいげ 口無池地区																										
事業箇所	たかおかちよう 大府市高丘町																										
事業のあらまし	<p>本地区は、大府市の南部に位置しており、口無池は地域のかんがい用水源として重要な役割を果たしている。</p> <p>しかし、堤体の耐震性不足や洪水吐の流下能力不足により、万一、決壊した場合には、下流の事業所や農地・農業用施設及び公共施設等に甚大な被害を及ぼす恐れがある。</p> <p>このため、早急に地震対策及び豪雨対策を行い、ため池決壊による被害を未然に防止し、農業生産の維持、農業経営の安定及び地域住民の暮らしの安全の確保を図る。</p>																										
事業目標	<p>【達成（主要）目標】</p> <p>ため池決壊による被害を未然に防止し、農業生産の維持、農業経営の安定及び地域住民の暮らしの安全の確保を図る。</p> <p>（基準雨量：115.1mm/時間、1/200年確率雨量）</p>																										
事業費	事業費		内訳																								
	1.9億円		■工事費 1.6億円、口用補費 0.0億円、■その他 0.3億円																								
事業期間	採択予定年度	2022年度	着工予定年度	2023年度	完成予定年度	2025年度																					
事業内容	堤体工、取水施設工（緊急放流施設付）、洪水吐工 各一式																										
II 評価																											
①事業の必要性	1) 必要性	<p>口無池は、堤体の耐震性不足や洪水吐の流下能力不足により、地震時・豪雨時には決壊する恐れがある。</p> <p>このため、堤体・洪水吐等の改修や緊急放流施設の設置により、ため池の決壊を未然に防ぎ、農業生産の維持、農業経営の安定及び地域住民の暮らしの安全確保を図る。</p> <table border="1" data-bbox="414 1272 1050 1624"> <thead> <tr> <th></th> <th>必要能力</th> <th></th> <th>口無池</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">堤体の耐震化</td> <td rowspan="2">安全率 1.2以上</td> <td>現況</td> <td>0.83</td> </tr> <tr> <td>計画</td> <td>1.22</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">緊急放流 施設の整備</td> <td rowspan="2">放流時間 24h以内</td> <td>現況</td> <td>26.2</td> </tr> <tr> <td>計画</td> <td>23.9</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">洪水吐の改修</td> <td rowspan="2">計画排水量 (m³/s)</td> <td>現況</td> <td>4.62</td> </tr> <tr> <td>計画</td> <td>5.10</td> </tr> </tbody> </table> <p>また、決壊した場合に人的被害を与えるおそれのあるため池の防災工事等の推進を目的とした、「防災重点農業用ため池に係る防災工事等の推進に関する特別措置法」に基づき作成する「防災工事等推進計画」に位置付けた事業である。</p>					必要能力		口無池	堤体の耐震化	安全率 1.2以上	現況	0.83	計画	1.22	緊急放流 施設の整備	放流時間 24h以内	現況	26.2	計画	23.9	洪水吐の改修	計画排水量 (m ³ /s)	現況	4.62	計画	5.10
		必要能力		口無池																							
堤体の耐震化	安全率 1.2以上	現況	0.83																								
		計画	1.22																								
緊急放流 施設の整備	放流時間 24h以内	現況	26.2																								
		計画	23.9																								
洪水吐の改修	計画排水量 (m ³ /s)	現況	4.62																								
		計画	5.10																								
判定	A	<p>A： 現状の課題又は将来の予測から事業の必要性がある。</p> <p>B： 現状の課題又は将来の予測が十分把握されていない。</p> <p>【理由】</p> <p>堤体の耐震性不足や洪水吐の流下能力不足により、ため池決壊の危険性が高いことから、本事業により災害の未然防止を行うことが急務であるため。</p>																									

②事業の実効性	1) 事業計画		2022	2023	2024	2025
	工種 区分	調査・設計	←→			
		補償補填		←→		
		工事		←→		
		・堤体工		←→		
		・取水施設			←→	
		・洪水吐工				←→
	事業費（億円）		1.9			
2) 地元の合意形成	地元からの申請事業であり、事前に地元関係者への説明などを行っており、合意形成は図られている。					
判定	A	A： 事業計画の実効性が期待できる。 B： 事業計画の実効性が期待できない。				
	【理由】	地元の合意形成が図られており、実効性が期待できる。				
Ⅲ 対応方針						
事業実施が 妥当である。	事業実施が妥当である。： 上記①及び②の評価がすべてA判定であるもの。 事業実施は妥当でない。： 上記以外のもの。					
Ⅳ 事後評価実施の有無と主な評価内容						
<input checked="" type="checkbox"/> 対象（事業完了後5年目） <input type="checkbox"/> 対象外 【事業完了後5年を越えて実施する理由・対象外の理由】 — 【主な評価内容】 事業後の決壊被害の有無を確認 ※事業完了後5年以内に計画規模と同等の地震及び降雨が発生した場合、その地震及び降雨により評価する。 事業完了後5年以内に計画規模と同等の地震及び降雨が発生しなかった場合は、事業完了後5年間の最大規模の地震及び降雨により評価する。						